

〈論文〉

文学翻訳における三視点对照翻訳法の活用： —媒介翻訳としての AI 翻訳の使用について—

The Utilization of Three-Point Comparative Translation Method in Literary Translation: Exploring the Use of AI Translation as a Mediating Tool

NGUYEN Thanh Tam

Summary

The current paper examines the transformative potential of artificial intelligence (AI) within the realm of literary translation, with a focus on its application in intermediary translation and the innovative approach of triangular comparison. AI's entry into the field of translation studies has sparked profound discussions on its impact, ranging from efficiency gains to creative limitations. This research adopts a threefold perspective: In the first perspective, it introduces the concept of triangular comparison, a methodology that leverages AI to compare multiple translations, illuminating nuanced variations and fidelity to the source text. In the second perspective, it scrutinizes the role of AI as an intermediary translator, highlighting its capacity to bridge linguistic and cultural gaps while aiding human translators in preserving the essence of literary works. Finally, this study evaluates the implications of AI utilization in some specific examples of Japanese literature translation into English, French, and Vietnamese. By advancing our understanding of AI's role in literary translation, this research contributes to the ongoing discourse on the future of translation studies and the evolving relationship between human translators and AI technologies.

キーワード

文学、AI 翻訳、三視点对照翻訳法

1 はじめに

文学は人間の心と思考が織りなす成果であるため、文学作品の翻訳では他の文書を翻訳するよりはるかに大きな困難に挑戦することになる。まず、翻訳者は原文の言葉、メタファーや作家の思考、独特の表現スタイルや作品内に含意された意味を解釈しなければならない。その後、できるだけ作品の一貫性を保ったまま、これらの独自性を損なわずに文化的、個性的な内容を最大限に伝達する方法を見つける必要がある。このように文学翻訳は極めて複雑で挑戦的なプロセスであり、いくら科学技術が発展しても人間による翻訳が不可欠であると言っても過言ではないだろう。翻訳者の役割について、

アメリカの小説家・翻訳者ポール・オースターは「翻訳者は文学の影の英雄であり、しばしば忘れられがちな手段である。これにより異なる文化同士が対話することが可能となり、私たちにすべての人々が世界中のどの場所からも、ひとつの世界に住んでいることを理解させてくれている」と指摘した。

ただし、翻訳者が知らない語彙を辞書で調べ、著者や翻訳対象の作品についての文献を調査するなど完全に「手作業」に依存するだけで翻訳を行う場合は、良い翻訳を完成させることが可能であるものの、そうした膨大な作業に多くの時間と労力がかかる。もし科学技術、具体的には自動翻訳を情報収集や翻訳の選択肢を提供するツールとして使用できれば、翻訳者はより効率的に翻訳作業を行い、基本的な調査作業に費やす時間を削減し、難解な部分に集中し、芸術的な創造に喜びを見出すことができるのではないか。また、AI 翻訳の高速性と高い翻訳精度という特徴が文学翻訳に適用可能であるのか。それが可能であればどのように適用できるのか。こうしたことが実用上の課題となるであろう。

実際の翻訳現場では、AI 翻訳を何らかの形で使用している翻訳者が少なくないかもしれない。しかし、その使用の理論的な枠組みと根拠がまだ出来ていないため、何に注意すべきか、どの範囲でAI 翻訳を使うべきか、などといった戸惑いが存在しているだろう。

そこで、本稿の主要な目的は、文学翻訳のプロセスにおいて、AI 翻訳がどのように関与できるかの理論的枠組みを提供することである。具体的には、文学翻訳で有効な翻訳法として証明された「三視点对照の翻訳法」とAI 翻訳の関係を明確化し、「三視点对照の翻訳法」のモデルに基づいてAI 翻訳を媒介翻訳として活用することで、異言語間の文学作品翻訳における新たな展望や可能性を考察することにある。また、実例をあげ、AI 翻訳が文学翻訳プロセスをどのようにサポートできるか、その利点と制約を検討する。

研究方法については、まず異言語間での翻訳対象となる日本の文学作品を選定する。選ぶ作品は、感情が豊かに描かれ、固有名詞や日本の文化的な用語が含まれているものとし、具体的には、短歌、源氏物語の巻名、及び村上春樹の小説から抜粋を選定することとした。訳文を分析するにあたって、Nguyen (2016) が提案した「三視点对照の翻訳法」の観点から、AI 翻訳の媒介翻訳としての役割と効果を検討する。詳しくは、文学翻訳のプロセスにAI 翻訳の媒介翻訳を組み込む以下の二つのケースを検討し、分析する。

【ケース a】目標テキスト (TT) の作成が完了した後、正確性を確認するツールとしてAI 翻訳を使用する場合：(例：Trịnh Lữ の「Rừng Nauy」の翻訳、源氏物語の第三部の巻名の翻訳)：選定された文学作品の抜粋をAI 翻訳で目標言語 (TL) を含む異なる言語に翻訳し、その出力を既存の人間による翻訳 (例：Trịnh Lữ の「Rừng Nauy」の翻訳、源氏物語の章の英語・ベトナム語のタイトル) と比較する。最終的に、その対照からわかった誤訳、訳漏れを修正し、新たな翻訳文を考える。

【ケース b】TT 作成が完了する前に、機械翻訳を参考にし、原文の概要を理解するためのツールとしてAI 翻訳を使用する場合 (短歌、随筆の翻訳)：最初に選定された文学作品の抜粋をAI 翻訳で異なる言語に翻訳し、その出力に基づいて、新たな翻訳文を考える。

訳出を評価する際に、文学作品の感情やニュアンスが正確に伝わるかどうか、文化的要素がどの程度保持・転移されるかなどに注目する。

1 原文：“Translators are the shadow heroes of literature, the often forgotten instruments that make it possible for different cultures to talk to one another, who have enabled us to understand that we all, from every part of the world, live in one world.”(Paul Aster) [Online] <https://www.thejc.com/life-and-culture/all/translators-come-out-of-the-shadows-1.439874> (2023年9月9日閲覧)

II 先行研究及び基本概念の整理

本稿で扱う用語、概念については下記のように整理したい。

2.1 人間翻訳と機械翻訳／AI 翻訳の関係について

人が行う人間翻訳 (Human Translation) と機械 (コンピューター) が行う機械翻訳 (Machine Translation) または自動翻訳 (Automatic Translation) はよく対比的関係にあると考えられがちであるが、その考え方は翻訳研究にプラスにならないかも知れない。Rozmyslowicz (2014: 160) は、機械翻訳と人間による翻訳の区別によって、翻訳の社会文化的機能と効果についての研究の対象関係を放棄することにつながると指摘し、この方法論的問題への解決策として、あらゆるコミュニケーションプロセスの出発点を「理解」と想定することを提唱している。

さらに本稿では、機械翻訳と AI 翻訳の用語を区別する。近年急速に進化する AI (人工知能) による翻訳プログラムによる訳出 (本稿において AI 翻訳と言う) は精度の進歩を否定できなくなってきた。初期の Google Translate のような「機械翻訳 (Machine Translation)」は、翻訳の質の点で限界があり、特に複雑な文や専門的な分野のテキストでは精度や自然さに欠けることから、滑稽なアウトプットになることもあった。しかし、2016 年からニューラルネットワーク (神経回路網) による翻訳技術が開発され、深層学習や文全体を対象にして訳を決める翻訳のプログラムが実現できるようになった。その基礎に基づいて、大規模なデータと深層学習モデルの組み合わせに基づいた最新の AI モデルの翻訳 (ChatGPT3.5 以降や現在の Google Translate) では高度な品質の翻訳が可能となり、技術や医療などの実践の翻訳に運用され始めている。本稿ではこのようなかたちで普及してきた ChatGPT3.5 以降や現在の Google Translate のことを、歴代の機械翻訳、自動翻訳と混同しないように、「AI 翻訳」という名称で呼ぶこととする。

2.2 文学翻訳の創作に AI による媒介翻訳の適用について

本節では、文学作品の特性と文学翻訳の役割について議論し、直接翻訳と重訳の違いについて解説する。「文学翻訳」とは起点言語 (Source Language-SL) で書かれる文学作品である起点テキスト (Source Text-ST) を目標言語 (Target Language-TL) に移し換えること、及びその目標テキスト (Target Text-TT) をいう。文学翻訳も原作のように、文学作品として読まれ評価されるため、翻訳者は常に ST の表現技法や芸術的な言葉遣いやそこに込められた作者の思い・気持ちなどを十分に理解した上で、TL の読者の理解・感動を目指しながら、いかにして TT の言葉で ST の要素を再現できるのかと悩むことになる。それは創作のプロセスでもあり、創作者である翻訳者によって創作された「TT = 文学作品」は新たな命を持つことになるだろう。科学・法律・経済の文献とは異なり、文学作品の翻訳においては ST とのギャップこそ、新たな創作が生まれる余地である。

事例において AI 翻訳の訳出を人間翻訳と対比させて分析する際には、人間による媒介言語での翻訳は媒介テキスト (Mediating Text-MeT)、AI 翻訳による媒介言語での媒介テキストは MeTAI とする。ChatGPT-3.5 による MeTAI を出す手順は、まずやってほしいこと及び回答してほしい形式を簡潔に記載する指示文を入力し、処理する必要があるテキストを貼り付け、実施のボタンを押すということである。

2.3 文学翻訳の文化視点と「三視点对照の翻訳法」

本稿では、異文化的コミュニケーションプロセスとしての翻訳を捉えたい。即ち、翻訳する過程で、翻訳者はまず SL の文化の立場を取り、ST の内容を解釈し、その内容を TL の文化で理解できる TT を作成するものとする。また、本稿で使われる「視点」とは、翻訳者が文学作品の物事、すなわち著者の文化を見たり考えたりする時の立場を示し、言語・文化的視点を意味する。その言語・文化的視点と関連づけて、以下に翻訳の概念を捉えることとする。

ここで、通常「翻訳」のプロセスを単純化し、図式化すると、以下の図1のようになる (Nguyen 2016:54)。矢印は翻訳行為が行われることを表す。網掛けした円形は TT 作成に直接関与する文化的視点であり、四角はその文化的視点を取り、ST と TT に関与する主体を示すものとする。

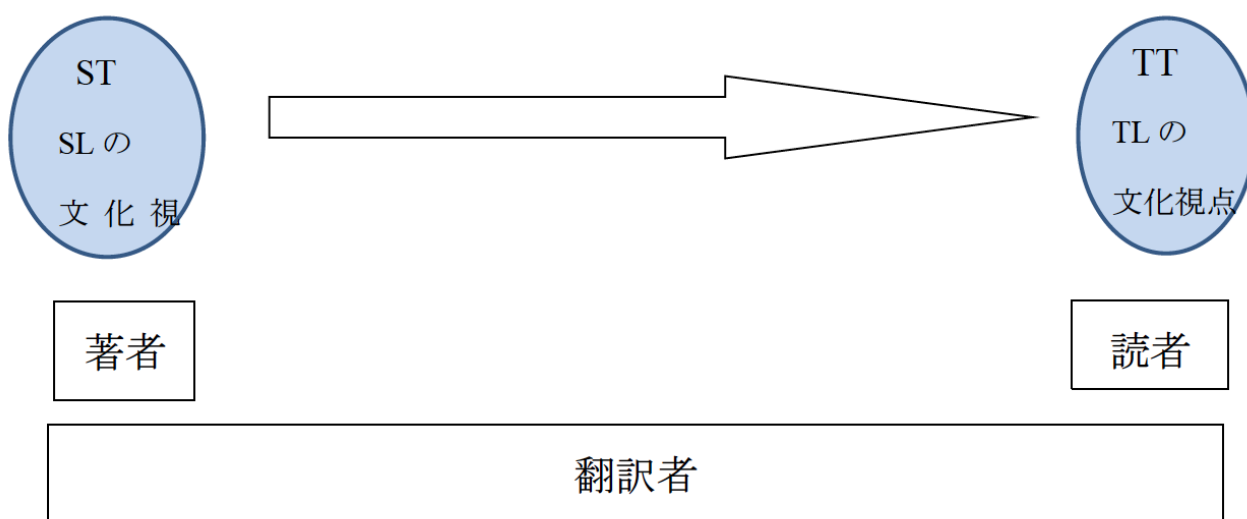


図1 ST と TT の関係のみを持つ「二視点翻訳」としての翻訳プロセス

図1に示したモデルでは、本質的にはSTとTTという二者間の関係、すなわち文化的な二視点に関連するため、「二視点翻訳」となる。

2.4 三視点对照翻訳法とAIを用いた媒介翻訳

通常の翻訳プロセスは二視点のみがかかわるが、参照するための文化的視点を追加したらどうなるのか。藤濤(2007:11)はSTとひとつのTTだけの比較より、別のTTとの「第三視点」の使用という方法論は「絶対化・固定化に陥らない...、全く異なった解決策を示していることがよくあり、相対化を図る上で極めて有効である」と述べている。その発想に刺激を受けてNguyen(ibid.:49)が提唱した「三視点对照の翻訳法」は、異なる言語のMeTとST、MeTとTTを文化間の相互理解に役立たせることにより、翻訳のミスを抑制し、適切な翻訳を導く効果があり、翻訳者にも創造の余地を与える可能性を示唆するものである。ただし、「三視点对照の翻訳法」の課題の一つは、多言語に精通する翻訳者の数が限られることや第3文化的な視点/媒介言語を参照できる人材が常にあるわけではないことと考えられる。本研究では、その課題をMeTとしてのAI翻訳で解決することを試みる。

上記の図1と「三視点对照の翻訳法」を基にし、主にChatGPT-3.5, Google TranslateによるMeTAIを導入し、本稿で日本の文学作品を異なる言語に翻訳する手法を図2のように表す。

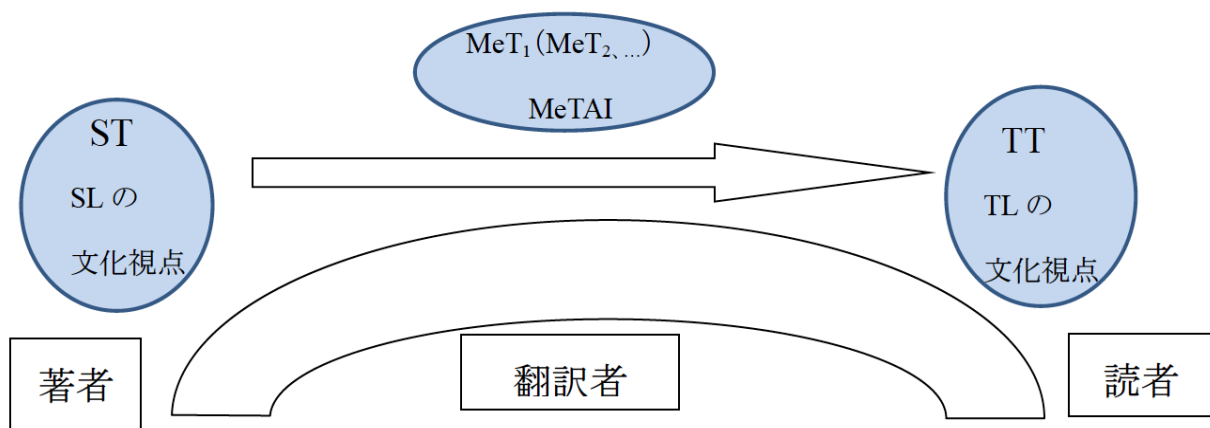


図2 STとTTとMeTの関係を持つ「三視点翻訳」としての翻訳プロセス

図2のようなSTとMeTの両者を用いる翻訳のプロセスでは「三視点对照の翻訳法」が成立する。STとMeTという二つの参照点からTTを作成することができる。つまり、翻訳者はMeT、TT、そして特にSTからの三視点を対照することができるわけである。このような翻訳方法は、STの使用の程度によって、さらに2タイプに分けられる。一つ目はMeTをTTの主な底本とし、STを参照にするため、重訳の一種でもある「三視点对照の重訳」である。二つ目は、STをTTの主な底本とし、MeTの参照を加えるという「三視点对照の翻訳」のである (Nguyen, ibid. : 50)。

III 事例と考察

本節ではAI翻訳の活用及び翻訳者による修正・補充による日本文学の具体的な事例を分析する。それを通じてAI翻訳がどの程度文学作品の再現に貢献し、その後、翻訳者が人間らしい表現や文学的な要素を維持するためにどのように介入するかを検討する。村上春樹『ノルウェイの森』の英語版から翻訳されたTrịnh Lữ訳(2006)、古典文学の『源氏物語』や俳句等英語版のベトナム語訳からも一部、事例を出して分析することにする。

Nguyen (2016) が述べた三視点翻訳の効果を踏まえて、本節を3つに分け、3.1では誤訳やミスを制限できる効果を、3.2では文化的に妥当な訳を導く効果を、3.3では文学的創造の可能性を広げる効果を、それぞれTTとMeTAIにおける対応状況を確認しながら分析する。分析対象は単語とフレーズのレベルのみに絞って論じる。原文に注意が必要な部分は下線部で示す。

なお、便宜上、日本語原作をST、執筆者による最終的ベトナム語訳をTT、AIによるMeTである英語訳、フランス語訳、中国語訳をMeTAI英、MeTAI仏、MeTAI中とする。さらに、ChatGPT-3.5によるMeTAIを出す際に、まず入力した「指示文」及び出力の「結果」を提示する。参照のためにベトナム語の引用文には、()の中に執筆者による直訳も付加する。

3.1 誤訳やミスを制限できる効果：日本文化の固有名詞の表記を確認

村上春樹の『ノルウェイの森』の事例では、みどりが自分の高校時代の話に触れた台詞、さらに

Jay Rubin による英訳を介してベトナム語訳された部分は以下のとおりである。下線部の日本事情に関する部分は、翻訳において解説を補充し、次のように訳された。

《例1》ST: 修学旅行っていや 京都の高級旅館を借りきって塗りのお膳で懐石料理食べるし、年に一回ホテル・オークラの食堂でテーブルマナーの講習があるし、... 私の学年の百六十人の中で豊島区に住んでる生徒って私だけだったのよ。私一度学生名簿を全部調べてみたの。みんないったいどんなところに住んでるんだろうって。すごかったわねえ、千代田区三番町、港区元麻布、大田区田園調布、世田谷区成城...。(『ノルウェイの森』, 上 111-112)

例文 (1a) TT 英語² → ベトナム語: Ví dụ nếu chúng tớ đi Kyoto, họ sẽ đưa chúng tớ vào một nhà hàng hạng nhất và bung ra những món ăn trà đạo bày trên bàn sơn mài và năm nào họ cũng đưa chúng tớ vào khách sạn đắt tiền nhất ở Tokyo để học cũng cách ứng xử trong bữa ăn... Trong số một trăm sáu mươi đứa con gái cùng năm, tớ là đứa duy nhất sống trong một khu trung lưu như Toshima. Đã có lần tớ lục danh sách học sinh ở trường để xem bọn nó sống ở đâu, hoá ra đứa nào cũng ở những khu giàu có cả. (Rừng Na Uy p.377)

(直訳: 例えば京都に行くなら(※文法的補充)、彼らは一流のレストランに連れて行って漆のテーブルで茶道の料理を出すこと、そして私たちがテーブルマナーを学ぶために、毎年彼らは東京の一番高いホテルにも連れて行って... 百六十の同級生の中で、私は豊島みたいな中流の地域に住んでいるたった一人である。みんなどんなところに住んでいるのかを調べるため、一度学生名簿を全部調べてみたが、やっぱりみんなはお金持ちのエリアに住んでいる。)

以上の例文 (1a) では、日本の事柄に限定しない解説を追加する訳法が見られる。「旅館」は英語訳では「inn」だが、ベトナム語訳で nhà hàng (=「レストラン」) になった。また、「懐石料理」を「茶道の料理」という説明的な表現に変えたのは日本文化らしさをより強調するためではないかと思われる。逆に、ここでは、日本(正確には『ノルウェイの森』の時代背景となっている1960年代の日本)の事情をよく理解するために、原文に現れる日本の伝統的な高級料理や東京の地名を保持する必要があるだろう。さらに、ホテル・オークラや東京の場所の固有名詞の部分がほぼ省略され、「東京の一番高いホテル」や「お金持ちのエリア」という表現のみになっている。また、人物の感情を表す台詞の中の「すごかったわねえ」も TT (1a) で見つからない。このように誤訳だけではなく、訳漏れ・省略・追加という問題についても、受動的にそのまま使用されてしまうことを回避できない。このことは、重訳の翻訳者が一つの媒介翻訳に完全に依存して、他の選択の余地がないことから生じるものであると考えられる。

次のステップとして、チェックしたい日本語 ST の段落について ChatGPT-3.5 で英訳と仏訳を生成した。およそ10秒以内で、以下の結果は出てきた。

2 MT 英語: For instance, if we went to Kyoto, they'd put us up in a first-class inn and serve us tea ceremony food on lacquer tables, and they'd take us once a year to the most expensive hotel in Tokyo to study table manners... Out of 160 girls in my class, I was the only one from a middle-class neighbourhood like Toshima. I looked at the school register once to see where the others lived, and every single one of them was from a rich area. (Nowergian wood, 78-79)

例文 (1b) MeTAI 英語 :

“School trips are terrible. Everyone rents out luxurious inns in Kyoto and eats kaiseki meals on lacquer trays. There’s even a table manners lecture once a year in the dining hall of the Hotel Okura. Out of the 160 students in my grade, I was the only one living in Toshima Ward. I once went through the entire student roster. I wondered where everyone lived. It was amazing, you know? Chiyoda Ward, Sanbancho; Minato Ward, Motoazabu; Ota Ward, Denenchofu; Setagaya Ward, Seijo....”

例文 (1c) MeTAI 仏語 :

“Les voyages scolaires sont ennuyeux. Tout le monde loue des auberges de luxe à Kyoto et mange des plats kaiseki sur des plateaux laqués. Il y a même une leçon de bonnes manières à la table une fois par an dans la salle à manger de l’Hôtel Okura... Parmi les cent soixante élèves de ma classe, j’étais la seule à vivre dans le quartier de Toshima. J’ai une fois vérifié la liste de tous les élèves. Je me demandais où tout le monde habitait. C’était incroyable, tu sais ? Chiyoda-ku, Sanbancho ; Minato-ku, Motoazabu ; Ota-ku, Denenchofu ; Setagaya-ku, Seijo...”

上記の事例 (1b) と (1c) の下線部では、ST からの AI 翻訳の英語版とフランス語版において、日本の固有名詞 (例:「旅館」、「懐石料理」) や場所、地名 (例:ホテルオークラ、千代田区三番町、港区元麻布、大田区田園調布、世田谷区成城) が省略されずに、そのまま訳されており、最終版の TT 作成のために、参考にすることができる。

しかし、興味深い間違いが起きている。ST «例1» の「いや」という単語は AI 翻訳例文 (1b) で「terrible=ひどい」(1c) で「ennuyeux=つまらない」という意味で解釈されたようである。その文脈では誤った訳となっている。対照的に、出版された (人間による) ベトナム語の翻訳 (英語版からのベトナム語訳) では「ví dụ = 例えば」と訳されている。

ところで、興味深いことに、2 回目 4 の ChatGPT の検索で、より直接的な指示文「Translate the next paragraph from Japanese into English and French.」に変えると、上記の誤訳が解消できる。詳しくは以下の通りである。

MeTAI 英語 by (2023 年 9 月 15 日検索) :

「In English:

“School trips, well, we’d reserve a luxury ryokan in Kyoto and have kaiseki cuisine served on lacquer trays. Once a year, there’d be a table manners workshop at the Hotel Okura... Among the 160 students in my year, I was the only one who lived in Toshima Ward. I once checked the entire student roster. I wondered where everyone else lived. It was amazing, Chiyoda Ward Sanbancho, Minato Ward Motoazabu. Ota Ward Denenchofu, Setagaya Ward Seijo”」

最後に、上記の例文を踏まえて、TT ベトナム語 by 筆者を添削し TT を仕上げると以下のようになる (1 回目の誤訳は取り消し線で表示する)。

例文 (5) TT ベトナム語 : “Những chuyến đi tham quan cùng trường thật nhàm chán (つまらない) , họ

thuê đứt những lữ quán sang trọng ở Kyoto và cho chúng tớ ăn những món ăn kaiseki trên những chiếc khay sơn mài. Thậm chí còn có một bài học về cách cư xử trên bàn ăn mỗi năm một lần tại nhà ăn của khách sạn Okura... Trong số một trăm sáu mươi sinh viên ở trường, tớ là người duy nhất sống ở quận Toshima. Một lần tớ kiểm tra danh sách tất cả học sinh. Tớ tự hỏi mọi người sống ở đâu. Thật đáng kinh ngạc! Toàn những nơi như khu Sanbancho - quận Chiyoda,; khu Motoazabu quận Minato; rồi thì Denenchofu quận Ota; hay khu Seijo quận Setagaya-ku...”

(直訳：修学旅行は退屈だいや、京都の高級旅館を借り切って、漆塗りの盆に乗った懐石料理を食べさせてくれた。ホテルオークラの食堂では、年に一度テーブルマナーの授業もあるのですが... 全校生徒 160 名のうち、豊島区に住んでいるのは私だけだ。一度生徒全員のリストを確認してみた。みんなどこに住んでるのかな。驚いたこと！三番町エリア～千代田区など全域；元麻布エリア港区。次に田園調布大田区。または世田谷区成城エリアみたいところばかり...)

つまり、Trinh Lu 訳 (1a) では、ST の参照がなかったため、TT は英語の媒介翻訳のみに偏ってしまい、不要な省略を避けることができなかった。そこで、MetAI(1b)(1c)を参考にし、(1d)のように訂正できた。具体的に、(1d)の TT では、「いや」の誤訳を修正でき、場所の名前を復元し、ST の「すごかったわねえ」の適訳も加えられる。今後、このような単純な重訳は AI 翻訳の MeT によって ST の参照を行うことで、より正確な翻訳に仕上げることも選択肢の一つとして可能になるだろう。

3.2 文化的に妥当な訳を導く効果：ST の時代雰囲気 TT の対応の時代の表現に変える




この節では、まずベトナム語訳における日本の漢語に注目し、考察する。ベトナムは漢字文化圏に属する国の一つである。漢語の翻訳は、英語、フランス語等という非漢字圏の言語を介して訳す時の代表的問題である。漢字を用いる際に、ベトナム語の音で発音するという「越音読法」を用い、ベトナム漢語、いわゆる「漢越語」の誕生に至った。現代のベトナム語の語彙の約 7 割は漢越語であり、その中の大部分は漢字表記が可能である。こうして、日本語とベトナム語は文字が共通していないにもかかわらず、漢語があるからこそ、欧米言語より、日本語とベトナム語の間には、漢字の言葉の意味と語感が共通する箇所が多いと判断できるだろう。ベトナム語訳で漢越語を使う効果には、「荘重な色調 (ニュアンス)、優雅な色調、威圧的 / 抽象的な色調、古風な色調という婉曲語法がある」という³。

そこで、日本の典型的な『源氏物語』の章タイトル (巻名) の翻訳の例を挙げたい。訳出を対比するため、MeT の「The Floating Bridge of Dreams」及びそれに応じたベトナム語訳 Truyện kể Genji (1991) に加えて、MeTAI の 2 種類の訳、そして最終の筆者による TT を表 1 にまとめ、検証する。

3 ベトナム言語学研究所のサイト [Online] <http://ngonngu.net/index.php?p=203> (2023 年 9 月 10 日閲覧)

《例 2》

表 1 【源氏物語】の巻名の英訳・越訳・AI 翻訳の例

例の番号	原文	MeT 英	TT 英 → ベ	ChatGPT による MeTAI* (ベトナム語漢語への音訳)	Google Image や Wikipedia で検索した画像による MeTAI**	筆者による TT
2a	宿木	Ivy	Cành nho dại (野良のブドウの枝)	Túc mộc	 (Wikipedia image Ja-Eng-Vi)	Cây tầm gửi (宿木)
2b	東屋	Eastern Cottage	Phòng phía Đông (東側の部屋)	Đông ốc	 (Wikipedia image Ja-Eng-Vi)	Đình phía đông (庭園の東の屋)
2c	浮舟	A Drifting Boat	Con thuyền trôi nổi (浮いている船)	Phù chu	 w Wikipedia 浮舟 (源氏物語) - Wikipedia (Wikipedia と ChatGPT による巻のあらすじ)	Nàng Phù Chu (浮舟さん)
2d	夢浮橋	Floating Bridge of Dreams	Chiếc cầu mộng mơ bồng bênh (浮いている夢の橋)	Mộng Phù Kiều	(Wikipedia と ChatGPT による巻のあらすじ)	Mộng Phù Kiều (夢浮橋)

東洋的な文彩を保とうとする翻訳者の意識を読者が理解するためには、漢越語を使うことが有意義であると考えられる。この操作は、ヨーロッパ言語の英語やロシア語を媒介した訳では若干運用し難いと思われる。ここで、ChatGPT を用い漢語の音訳を出してみた。結果は (2a)~(2d) の MeTAI* の列である。ただし、(2a) の “Túc mộc”(2b) の “Đông ốc”, (2c) の “Phù chu” の漢越語は現代の一般的ベトナム人にとって、意味が不明な組み合わせとなるため、タイトルの脚注で説明を加えるか、より分かりやすい現代のベトナム語に置き換えるか、という 2 方法である。ここでは、後方の方法を主張し、改めて ST のタイトルの意味を解明するために、Google Image と Wikipedia での検索を工夫した。その参照の過程の結果として、適訳と思われる TT ができた。

(2d) の例「夢浮橋」については、藤原定家の古注釈『源氏物語奥入』で「世の中は夢の渡りの浮橋かうち渡りつつものをこそ想へ」という解説を調べ、深い理解を得られた。その参照を踏まえ、最終の TT を “Mộng Phù Kiều” にすることが確信できた。この訳出は、有名な日本文学の翻訳者ニヤット・チエウが提案した訳 (NguyễnThị Thanh Xuân ed., 2008: 68) と一致した。Mộng phù kiều は「夢・浮・橋」の漢越語である。この訳語はベトナム語にはなかった単語であるにもかかわらず、「Mộng = 夢」

4 Wikipedia[Online] <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A2%E6%B5%AE%E6%A9%8B>

に「phù =浮かべる」「kiêu =橋」との意味が十分に伝わっており、響きも非常に古典文学的な表現である。この翻訳法は、小説全体の文脈と漢字圏の国の文学によく使われる修辞技法を考慮すれば、STの多義性を維持することが出来た例と言える。

それに、語源や語の意味、対象の物語の映像についてネットで調査を行えることも現在の MetAI のメリットである。このように、重ねた参照のプロセスにより、最終的にはベトナム人読者にとって理解しやすく、文化的に適切な TT が実現できた。

別の例として、14 世紀に兼好法師の日本的な随筆である『徒然草』の有名な冒頭を挙げるができる。

《例3》ST: 「つれづれなるままに、日くらし、硯にむかひて、心にうつりゆくよしなし事を、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。」

原文を読んでもすぐに意味がわからない場合は、文章の大意を理解するために、ChatGPT-3.5 を用いることができる。ChatGPT-3.5 であれば数秒というわずかな時間で、下記のように現代日本語及び多言語の訳を調べることができる。

MetAI (現代の日本語) (3a)

「何気なく、日常の生活を送りながら、硯に向かい、心に浮かび上がる些細なことを、そっと書き記してみれば、不思議なことにそのものごとが豊かになります。」

MetAI 英語 :(3b)

“In a leisurely manner, I face my inkstone as I go about my day, jotting down the fleeting thoughts that come to mind. Strangely, when I do so, even the mundane becomes precious.”

MetAI 中国語 :(3c)

“在悠闲的时光里，我坐在案前，记录着心头涌现的琐事。奇妙的是，这样做时，即使是微不足道的事情也变得珍贵起来。(Google Translate の直訳:「暇なときは机の前に座って、頭に浮かんだ些細な事柄を記録していました。すごいのは、これをやっている、どんなに小さなことでも大切になるということです」)”

素早く出てきた訳出 (3a)(3b)(3c) を参考にし、この冒頭の文章の意味をある程度を把握した上で、もう一回インターネットで以下の人間の翻訳いわゆる解釈 (3d) を求めた。

「手持ちぶさたなのにかかせて、一日中硯に向かって、心に〔浮かんだり消えたりして〕うつっていくつまらないことを、とりとめもなく書きつけると、妙に正気を失った気分になる⁵」。

上記の MeT(3a)(3b)(3c)(3d) を参照した上で行ったベトナム語の TT は以下の通りである。

5 <http://keirinkan-online.jp/high-classic-japanese/20201028/523/>, 2023 年 9 月 9 日閲覧

TT ベトナム語： Khi rảnh rang ngồi trước nghiên mực mà ghi chép lại những điều bình thường của cuộc sống thường nhật thoáng qua trong đầu, lạ thay, tôi cảm thấy như mất trí. (直訳：硯の前にぼんやりと座り、心に浮かんだ日常の何気ないことを記録していると、不思議と正気を失っていきような気分になった。)

TT のベトナム語の表現として意味が通じやすいのみならず、文学的な雰囲気がある文章となっている。もし作品の全体ではなく、冒頭の文章のみの理解が必要であれば、この複数の MeTAI を参考することは非常に効率が良いと思われる。

3.3 文学的創造の可能性を広げる効果：ことばの含意的なイメージを具体化する

《例 4》 持続天皇の短歌の原文、2 回 ChatGPT を使用し、出てきた翻訳の例は以下の写真の通りである。

1 回目の参照時の結果は以下の通りである。

指示文：「Translate next Japanese poem from Japanese into English and Chinese. “春過ぎて 夏来にけらし 白妙の衣ほすてふ 天の香具山”」

結果：

「Sure, the Japanese poem you provided is a classic by the poet 白居易 (Bai Juyi) and is written in a style known as “tanka.” It's a bit challenging to capture the exact nuances of poetry through translation, but I'll do my best to provide translations in English and Chinese.

English: (4a)

“Spring has passed,
Summer has arrived,
Gently I wear
A robe of white silk,
Upon Mount Kagu's heavenly scent.”

Chinese: (4b)

春天已过
夏季将至
白色的
衣裳已挂起
香具山的天空”
...」

以上の例(4a)では、ChatGPT の MeTAI は短歌の 5 文の中 4 文の意味が正しく訳されたが、1 文(Gently I wear) の意味を間違って解釈した。もう一つの参考は MeTAI 中 (4b) の「挂起」は「掛ける」という意味で原文のニュアンスを教えてくれた。重要な注意点として、誤った情報 (“a classic by the poet

6 1 回目の参照は 2023 年 8 月 23 日である。2 回目の参照は 2023 年 9 月 15 日である。

白居易”)が含まれていることである。これを踏まえて、以下の2回の参照をすることとした。

2回目の参照時の結果は以下の通りである。

指示文：「次の古文の詩を現代日本語と英語と中国語に訳してください」

結果：「この古文の詩を現代日本語、英語、中国語に訳します。」

現代日本語：(4c)

「春が過ぎ去り、夏が来たと思えば

美しい白い衣を洗おう

天の香具山で」

英語：(4d)

“Spring has passed,

As if summer has just arrived,

I will wash my beautiful white clothes

At heavenly Mount Kagu.”

中国語：(4e)

“春天已经过去，

就像夏天刚刚到来，

我将在天上的香具山上

洗我美丽的白衣。”

(Google Translate による直訳：「春は過ぎてしまいましたが、

まさに夏が来たみたいですね。

私は天国の香山にいるでしょう。

私の美しい白い服を洗ってください。)」

MeTAI(4a, 4b, 4c, 4d, 4e)を通じて、この短歌は、日本の自然や季節の美及び人間の感情を短い古典の詩句で表現したものとわかった。そのニュアンスを、翻訳においてもその魅力を最大限に引き出すために、さらに Wikipedia の「香具山」(下記の図3を参照)の画像を検索してみる。



図3 Wikipedia の「香具山」のウェブサイト画像

また、1回目と2回目の検索の結果で見られるように、4aと4d、4bと4eの間、違いが出た。これは ChatGPT のような生成 AI の特徴の一つは、使用者の指示文や言葉づかいによって、出てくる結果が変わることがあることである。

上記のことを踏まえながら、執筆者が行った新しい TT は以下のようなものである。

TT ベトナム語：(4f)

Xuân đã qua đi. Hạ đến rồi. Nhẹ bay chiếc áo ta phơi. Trắng trời núi Hương Cù (直訳:春が過ぎ、夏が来た。私が干した衣が香具山の白い空を軽く飛んでいる。)

例(4f)では、ベトナム語での「詩」の形式でありながら、原著の詩人の含意を執筆者の解釈で明示化した。香具山の名前はベトナムの漢越語の音に変えることにより、古典文学の雰囲気と保留できるかと思われる。

IV おわりに

本稿では、文学翻訳に関連する概念を整理し、三視点对象翻訳と AI 翻訳の関係に焦点を当て、文学翻訳における AI 翻訳の活用を探究した。結論として、AI 翻訳は翻訳家に多くの面で助けをもたらすことが示唆された。TT の作成が完了した段階(上記の【ケース a】)、ST における単語のレベルでの意味の勘違いを意識させるという効果が確認できた。また、TT 作成の途中の段階(上記の【ケース b】)では、日本語の ST の語彙や漢字の読み方を有効的にサポートし、語彙や表現の選択に関する翻訳者のストレスを軽減する活用方法も見られた。特に、MeTAI の多言語の翻訳を即座に閲覧することができることは、翻訳者の TT の創作に有意義な参考源ではないかという点も示唆した。どちらのケースも原文の部分的で参照に留まり、TT は翻訳者が行わなければならないと主張したい。

しかしながら、AI 翻訳の欠点も考慮すべきである。出てきた結果は検索時ごとと変わり、その根拠・原因を見つけることが不可能であることから、MeTAI を使用する際に十分な注意を払わなければならない。また、AI プログラムが提供する情報のオリジナル性や著作権の確認が難しいこと、正確性に対する責任を明確にできないことなどが挙げられる。したがって、翻訳家は常に慎重さを持ち、AI 翻訳を「下書き」として参照するだけでなく、修正するために信頼性のある情報源を調査し、「検証と照会」の作業を徹底することが不可欠であろう。さらに、AI 翻訳を参考にする際に、原文 (ST) の著作権・翻訳権や AI 翻訳ツールの著作権に関する問題は、別の研究で詳細に議論されるべきである。これにより、AI 翻訳の使用に関する法的及び倫理的な枠組みが明確化されると期待する。

本稿が文学翻訳における AI の応用の選んだ理由は、文学が多様なジャンルと多義性を備えているためである。そのため、文学翻訳家は原作に忠実である必要があるものの、新しい解釈や創造的なアプローチを提供できる余地もある。その解釈が妥当で読者に共感し受け入れられるものである限り、原作を再現する方法は多様である。要するに「人間による MeT のみ」か「AI による MeTAI」のみ、又は両者を参照するかという選択肢は翻訳者にある。どの方法を用いるのかは翻訳者の決定次第という点では本来の翻訳と違いがない。科学技術の不断の発展により、私たちの時代は変わりつつあり、翻訳を行う方法をどのように選択するか、より優れた、速い、(翻訳者が) 楽しめる翻訳をするかは、各々翻訳者の個人の選択であるべきだ。今後、翻訳を評価する際に、AI (機械) と人間の競争するのでは

なく、通常の翻訳法とツールを効果的に活かした翻訳法との比較になるだろう。

参考文献

- 藤濤 文子 (2007) 『翻訳行為と異文化間コミュニケーション — 機能主義的翻訳理論の諸相 —』 松籟社 .
- Nguyen Thanh Tam (2016) 「重訳の再評価の試み — ベトナムにおける日本文学の重訳を中心に —」 神戸大学大学院国際文化学研究科 2016 年 1 月 17 日提出 (博士論文).
- NGUYEN Thanh Tam (2016) “Indirect Translation Proposed as a Tool of Triangular Intercultural Communication - The Case of Japanese Literature in Vietnam”, *Translation und interkulturelle Kommunikation / Translation and Intercultural Communication*: 129-148, Frank & Timme, Germany.
- Nguyễn Thị Thanh Xuân (ed.) (2008). Văn học Nhật Bản ở Việt Nam (『ベトナムにおける日本現代文学』) Nxb. Đại học Quốc gia TP. Hồ Chí Minh.
- Rozmyslowicz, T. (2014) “Machine Translation: A Problem for Translation Theory” *New Voices in Translation Studies* 11: 145-63.

引用文献

- 瀬上 和典 (2018) 「機械翻訳の限界と人間による翻訳の可能性」 *Journal of Area-Based Global Studies* (Special Edition 2016), Sophia University, pp.1-24.
- 村上春樹 (2003) 『ノルウェイの森』 村上春樹全作品 1979~1989 講談社 .
- Murakami, Haruki (2000) *Nowegian Wood*, trl. by Jay Rubin, Vintage International.
- Murakami, Haruki (2006). *Rừng Na-uy*, Trịnh Lữ 訳, Nxb. Nhã Nam & Hội Nhà Văn.
- Murasaki, Shikibu (1976) *The Tale of Genji 1 & 2*, translated by Edward G. Seldensticker, Turtle Publishing.
- Murasaki, Shikibu (1991) *Truyện kể Genji Tập 1 & 2* (源氏物語), (翻訳者不明、「複数の翻訳者」との記載あり) , Nxb. Khoa học Xã hội Hà Nội.